

多高通信

第121号 平成27年8月24日発行

浦戸巡検に行ってきました

7月19日・20日、(独)海洋研究開発機構との連携事業として、二年生を中心とした生徒23名が浦戸諸島野々島での野外実習を行いました。実習は、地学班と生物班に分かれて行われました。地学班の講師は、6月9日の事前研修に引き続き小俣珠乃研究員をお招きしました。プレートテクトニクス理論や造山帯の話など、前回の講習が実際のフィールドワークで実感できた内容になりました。また、生物班は千代崎(毛無崎)に自生しているアカマツとクロマツ、そしてそのハイブリッド(自然交配)種の植生を観察しました。葉を採取・分析することで、植生分布を確かめました。初日には、第二管区海上保安本部、宮城海上保安部のご厚意により、測量船「天洋」と巡視船「まつしま」に乗船させていただく機会を得ることもできました。

地学班の様子。手に持っているのは紙とペン...ではなくiPadです。



この事業は、パナソニック教育財団の助成対象であり、宮城教育大学のCOO事業の協力を得て行われました。保存されている地図に直接記録を書き込む記録媒体や測定器具としてiPad用い、データを共有するなどの取り組みを行いました。これまでにない、校内外での多面的なタブレットの活用としても意義深い実習となりました。



結城優斗(2年7組 玉川中出身)

今回の体験を通して、事前研修で学習した地層の仕組みなどを実際に見て確かめ、貴重な経験ができました。講師の先生に進んで質問したり、自分で検証したりすることで、積極的な学びの大切さを改めて感じました。

水泳部

3年連続インターハイ出場!

遠藤朱莉(3年1組 多賀城二中出身)東北大会では練習の成果をしっかりと発揮し良い結果を残すことができたので、とても嬉しいですね。県大会よりも点数を上げることができたのは、大きな失敗をすることなく落ち着いて一つの種目に集中した試合運びができたからだと思います。

インターハイでも、自分の目標を達成できるように支えてくださっている全ての方々に感謝をし、競技にのぞみたいと思っています。

軽音楽部 夏の2大会で躍進!

宮城県高等学校対抗バンド合戦

7月20日、専門学校デジタルアーツ仙台で宮城県高校対抗バンド合戦が行われ、本校軽音楽部を代表して出場した3年生バンド「stily-shally(シリースエリー)」が、オリジナル曲「ainy」で特別賞を受賞しました。

田中愛歩(3年4組 高砂中出身)

私たち「stily-shally」は、この大会に出場するために部の仲間や友達、先生方などたくさんの方々に支えられながら頑張ってきました。おかげさまで特別賞をいただくことができました。グランプリを目指して頑張ってきたので悔しい気持ちが残りましたが、練習してきた成果を十分に発揮しパフォーマンスできたので満足しています。大会はこれで最後ですが、引退までの残り少ない時間を大切に、文化祭で最高のライブをお見せし皆さんに楽しんでいただけたらと思います。これからも多高軽音楽部の応援をよろしく願います。



第2回 ESP SENDAI ハイスクールバンドバトル

8月7日、ギターメーカーESPの仙台グループ主催の軽音楽コンテスト「ハイスクールバンドバトル」が、ライブハウス SENDAI Hooks で行われ、本校軽音楽部を代表して出場した3年生バンド「Happy@」(ハイフィー)がグランプリを受賞しました。プロのミュージシャンとしても活躍している、専門学校 MI JAPAN 仙台校の講師の先生が審査員を務め、公式戦と並び県内の軽音楽部の目標となっているハイレベルな大会です。



本大会は毎年夏・冬2回の開催ですが、本校は昨年冬大会からの2連覇を達成しました。

矢田目紗希(3年2組 しらかし台中出身)

この大会は私たちにとても思い入れのある大会でした。昨年の夏大会に出場したときは悔しい思いをしたので、今回の大会はその思いをバネに優勝を目指して一生懸命練習に取り組んできました。私たちが練習の成果を十分に発揮できたのは、皆さんの応援とサポートがあったからです。応援ありがとうございました。

放送部 全国大会出場!

7月20日から、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に第62回NHK杯全国高校放送コンテストが開催され、宮城県を代表してテレビドキュメント部門に本校放送部が出場してきました。本校の作品名は「点検通学路」。自転車通学が多い本校生徒にとって、自転車の事故防止は喫緊の課題であり、多角的に通学路について考えさせる本作品は、ニュース性もあり注目されました。残念ながら準決勝進出とはなりませんでしたが、全国から集まった様々な生徒と作品に触れ、今後の部活動につけて大いに参考になりました。



鹿児島女子高との交流会

7月22日、鹿児島女子高等学校校生徒会の皆さんが本校を訪れました。互いの生徒会活動の紹介や意見交換の後、防災委員が震災当時の様子や波高表示板の紹介などを行いました。



多賀城高校の生徒会活動の内容や、防災・減災への取組を伺い、生徒の皆さん一人一人の防災意識の高さに驚いたとともに、

生徒自身が主体となり、波高表示活動や学校独自のハザードマップを作成していることに、とても感銘を受けました。また、街歩きの際、防災委員の方からの説明や実際の場所からタブレットで震災当時の動画を視聴したことは私たちにとても衝撃であり、帰った後に家族や友人に伝えていかなければならないと強く思いました。

環太平洋大学協会の皆さんが来校しました

鹿児島女子高は一八九五年に創設され、今年で百二十周年を迎えるとても歴史のある学校です。交流会では、多賀城高校で行っている防災活動の発表に対し、一九四五年に起こった鹿児島大空襲の語り継ぎや、火山噴火を想定した避難訓練を発表していただき、とても有意義な会になりました。

参加者の感想... John Max Wilson 氏

(University of California Davis)

多賀城高校生との「まちあるき」はとても興味深いものでした。津波の影響を受けた多くの町は、悲劇の記憶を残すことと再建していくことのバランスが必要であると感じました。多賀城高校生の案内で、町がどのように再建されているか、津波の被害がどのようなものであったか、そして将来起こりうる災害のリスクを減少させるために知っておくべき歴史や安全性について説明されました。学校で行われた多賀城高校生によるプレゼンテーションは、国際的な協力の大切さに加え、災害に関係する政策、歴史、インフラを組み合わせたものであり、災害科学プログラムの重要性を認識しました。このような実践を通して、生徒たちは、自分達の町、国、さらには世界中へきつと変化をもたらしてくれると期待しています。



本校の活動を、海外からの参加者に英語で紹介しています。

大友奏穂(1年7組 塩竈一中出身)

今回は外国の方々に津波浸水域の案内をするという不安が

歩道橋下に設置した津波波高標識の説明



ありました。拙い言葉でも熱心に聞いてくださり嬉しい一面、伝えきれない悔しさもあり、もつと英語力を付けたいと思いました。また、日本の方と違つて、気になったことをすぐにくささん質問していたのが印象的でした。そして、この活動を通して自分たちも震災の事について改めて学ぶことができました。今後、復興を担う世代として、いろいろなことを学び構成にこの教訓を伝えていきたいと思いました。

■庄司遼（2年6組 しろかし台中出身）
海外の方々に都市型津波による被害や痕跡を見ていただき、地震や津波などの被害と今後の備えについて直接伝えることができ、経験になりました。私たちの「形として残す、言葉として残す、未来をつくる」という取組について世界の研究者からも高く評価されたことで自信となりました。

岩手大学

アカデミックインターンシップ

今年度から進路指導の一環として本校生徒を大学の研究室に受け入れていただき、大学での日々の学習や将来進む可能性のある学問分野に関連した研究活動等を試行的に体験する機会としてアカデミックインターンシップを実施することとなりました。今回は岩手大学の協力のもと、7月29日から一泊二日の行程で、二学年希望生徒24名が参加し、大学での学びについての講義、日常の講義や研究活動の体験、先輩との懇談を通して、大学への視野を広げ教育内容への理解を深めることができました。

データロガー制作の様子
緻密な作業が続きます...



■早坂学起（2年7組 鹿島台中出身）
私は工学部・電気電子通信コースでの体験を行いました。一日目は、データを取り記録する「データロガー」というものを制作しました。数時間の作業で完成したデータロガーは数センチ四方の小さい回路基板でしたが、それをパソコンにつなぐとしっかりと部屋の温度と明るさを記録してくれました。自分で制作した小さな回路が実際に動いているのを見て、ものづくりやデータを取ることに楽しさを改めて学びました。

二日目に作成した心電計も、一日目同様、心臓の動きをしつかりと自分たちに見せてくれました。

インターンシップに参加し、学部の内容がはつきりと分かり、何よりも自分がいま希望している進路についての意識が上がり、目標が明確になりました。今回の経験をもとに、さらに進路について深く考えていきたいと思っています。

地理特別授業

外でハザードマップを見てみよう



8月1日、静岡県裾野高校から伊藤智章先生をお招きし、地理の特別授業「外でハザードマップを見てみよう」が有志の生徒を対象に行われました。去る6月2日に行われた特別授業の続編です。

■山崎友菜（3年4組 高砂中出身）

今日は、東日本大震災について今まで知らなかったことを自分の目で見る事ができました。特に、建物に付いた津波の跡を見たときは、テレビで報道された数字では感じることのできなかった恐ろしさがありました。私の住んでいる場所にも津波が来ましたが、今回見た場所とは被害の大きさが違つていて、場所が少し変わったただでこんなにも状況が違うものなのかと驚きました。震災から時間がたち、忘れかけていた地震・津波への警戒心を取り戻す事ができたと思います。私は将来教員を目指していますが、伊藤先生の地震への対策の発想がすごいなあと思いました。私も、想像力豊かな教員になれるよう、様々なことに挑戦していきたいと思っています。



多賀城市・末の松山を訪ねました。

高校生バイオサミット in 鶴岡

8月2日から3日間、山形県鶴岡市で全国の高校生が生物学系の研究成果を発表する高校生バイオサミットが行われ、本校科学部が参加しました。

■内海健之（2年2組 中野中出身）

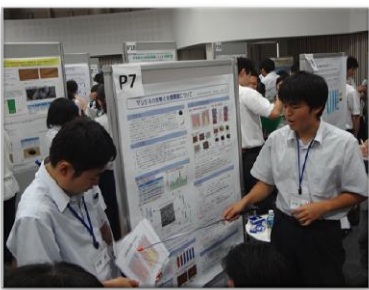
今回参加したバイオサミットでは、全国の60作品の中から選考される決勝に進むことはできませんでしたが、3日間、全国の高校生と交流することで、ポスターセッションの要であるポスターのレイアウトや、研究における



修了式後の記念撮影

続・キズナプロジェクト

新しい着眼点など、たくさんのご意見をいただくことができました。今回の結果は残念なものとなってしまいました。しかし、これを好機と捉え、これからの研究をより良いものとしていき、次に大会に出場するときは良い結果を残せるように頑張りたいです。



ポスターセッションの様子

8月4日、外国の方々に被災地を案内し現状を知ってもらおう「続・キズナプロジェクト」が行われました。

高台移転についての説明



平成25年から続けられているもので、3回目となる今回は、香港と中国から4名のゲストをお迎えして行われました。七ヶ浜では、菅蒲田海岸や仮設住宅の様子を、生徒たちが英語に訳しながら説明しました。また、七ヶ浜国際村を訪れ、目の前に広がる雄大な景色を眺めながら高台移転住居地やボランティア活動について説明しました。

松島をバックに記念撮影！



午後からは松島を巡り、見どころを英語で説明しました。

ハイスクールサミット in 福島

8月5日から3日間、いわき市で行われたハイスクール世界サミットに、本校から4名の生徒が参加しました。これまでは国内の高校生が集まって開催されていましたが、今年度より世界規模に拡大し、



様々な国・地域の高校生とともに、震災・原発事故からの復興やこれからの日本のエネルギーについて白熱した議論が交わされました。また、最終日には首相夫人の安倍昭恵氏や国交省道路局長、福島県副知事などとのフロアディスカッションも行われました。

吹奏楽部 東北大会出場！

■亀山沙月（2年7組 多賀城中出身）
今回のサミットに参加した皆さんは自分の意見をしっかりと持って、かつ他の意見も取り入れてくださる方々でした。そのような人々と関わり、私は今までよりも多面的に物事を見られるようになり、成長させてもらったと感じています。

8月6日、イズミティ21で行われた全国吹奏楽コンクールの宮城県大会で、本校吹奏楽部が金賞を受賞し、8月29日に行われる東北大会への切符を手に入れました。昨年の県大会では金賞を受賞したものの東北大会への出場はならず、雪辱を見事果たしました。



スタンドアップサミット

東日本大震災で被災した福島、岩手、宮城の3県と、首都圏の若者が復興について考えるイベント「STAND UP SUMMIT（スタンド・アップ・サミット）」が8月10日、12日、東京ビッグサイトで開かれました。海外も含め中学生、高校生、大学生ら約350人が参加。復興をテーマに意見交換し、本校からも震災当時の状況や復興の様子を発表しました。車いすテニスプレーヤー・国枝慎吾さんの講演会や、EJPNさんのライブなども催されました。

■佐々木ひかり（1年2組 多賀城中出身）

サミット2日目、「復興」を土台としたセッションで、「まちづくり」がテーマのグループに参加しました。「まちづくりへの不安・疑問」から「未来の計画」まで、意見を出し合いました。被災3県の学生からは「公園が無い」「海に入りにくくなった」など、不安な点が多く挙げられたのに対し、東京の学生からは「募金は何に使われているのか」「放射能の心配は無いのか」などの疑問点が挙がりました。東京の学生が分からないことが被災者側の私たちも分からないことがほとんどで、震災を経験したからといって無知なことは多く、このような企画に参加し情報を発信・共有することの必要性を感じました。住む場所も年齢も違う人と触れ合い、知見を広めることができたのが、一番のお土産となりました。

